数学教員養成ゼミ通信　第22号
発行日:2017.10.25　発行責任者:米津　直希

教たま

稚内北星学園大学 Wakkanai Hokusei Gakuen University COC地域教育支援室
文部科学省 地(知)の拠点
COC地域教育支援室活動レポート　No.12兼用情報

前期 学習支援を振り返りました その2

稚内中央小、稚内南小、稚内東小、潮見が丘小

放課後学力グングン塾（5/23～10/24）

●基礎学力の確実な定着と活用力・判断力・表現力の向上を目的に、稚内市教育委員会（教育研究所）の研究事業として実施している『放課後学力グングン塾』をお手伝いしました●週1回（火曜日）ですが、小学生とふれあうことの少ない学生にとって貴重な体験です。

学生感想

飯田　俊哉（２年）

グングン塾の学習支援に行き、児童たちの元気に圧倒された。「先生教えて～！」と声をかけてくれるのがすごく嬉しかった。しかし、わかりやすい言葉の選択など考えることも多くあった。小学生の力強いエネルギーに感動しました。ありがとう！

石尾　美岬（２年）

学習支援の補助を行い、教え方の難しさを知れた。かけ算やわり算を的確に教えることが大切だと知り、わからなくならないように補助することが大変だった。しかし、わかると笑顔で反応してくれるので楽しく接することができた。指導していただいた先生方のおかげで勉強になり楽しい学習支援でした。

蠣崎　瞬（２年）

今まで妹に勉強を教えるくらいだったため、お手伝いをさせていただいたのはとても良い経験となった。講義の関係で少ない回数だったけれど参加することができて良かった。

杉浦　健太（２年）

稚内中央小学校で国語を担当した。小学生との交流が初めてでかなり不安だったが、子どもたちの方から声をかけてくれてたくさん話すことができたので楽しかった。これからはこの経験を活かして子どもたちとふれあったり、勉強を教えたりしていきたいと思う。

疋田　晴哉（２年）

小学生の学習支援として行った「グングン塾」を経験して小学生に勉強を教えることは難しいことがわかった。これから当たり前のように使う算数の知識をまだ習得していない児童に対して、どう教えたら理解してもらえるのか考えるのが大変だった。間違った教え方をしてはいけないので、わからないところは担当の先生にアドバイスをいただきながら支援した。

古川　敦至（２年）

最初は小学生と接することがうまくいくのかが不安であったが、児童の方から話しかけてくれたのでやりやすかった。講義と重なることが多く、「グングン塾」に行く機会が少なかったのが残念だった。

佐藤　達也（３年）

子どもたちがわからなくて、そのわからないところがわかった時の子どもたちの顔が可愛いく、教員になりたいとなおさら思える経験をさせていただきました。子どもとふれあうことがどれだけ楽しいかわかるので、できることなら教員志望の学生以外に経験してほしい。

■学生の学習支援が紹介された「グングン塾便り」

コラム 北のまなびや

▼昨今みな同じように見えるアイドル。おじさん目線から見ると国民的美少女の元祖吉永小百合さんにはかなわない▼吉永さんといえば、稚内と縁がある。最近では「北の桜守」が有名だ。以前下勇知小中学校（現在は閉校）の玄関に、吉永小百合さんが履いたスリッパがあった。全国にこんな学校はないのでは▼コラム名の「まなび」は「学び舎」や「学び屋」？　読む人の感性に任せて読むのもいい。眼（まなこ）の美しい人が集う「眼美舎」人の間をナビゲートする（つなぐ）「間ナビ屋」▼稚内北星学園大学が地（知）の拠点として、地域に根を張る学びを創造したい。「北のカナリア」と韻が合うのは偶然なのか…（T）